

グループ別テーマ「個に応じた指導」

共通テーマ「授業づくりについて」

取組の実際

取組の実際

- 取組①「全国学力・学習状況調査の質問紙を重視した結果分析」  
テストの点数の分析だけでなく児童・保護者アンケートや全国学力・学習状況調査の質問紙の結果分析を重視し、心を育むことを第一に考えた学校経営、学級経営がなされている。また、分析の際、少数意見に目を向け、手立てを考え、指導に生かしている。
- 取組②「個に応じたきめ細やかな対応」  
学習の仕方が身に付く仕組  
例①) ノート指導の徹底により、課題解決の際に前時までのノートを見ればよいことを児童・生徒が分かっている。  
例②) 辞書や資料が手元にあり、すぐに調べることができる。  
例③) 宿題型ではない家庭学習ノートの徹底。自分で考えて課題を行う家庭学習。
- 取組③「個に応じた評価」  
授業の終わりに毎時間振り返りを行うことで、児童一人一人がどこでつまづいているのかを知ることができ、すぐに授業改善につなげ、個別支援も行うことができる。また、ふり返りノートや日記への細やかなコメントを記入し、教師による個に応じた評価を行っている。



資料1 辞書を引きながら一人学び

- 取組①「研究テーマに合わせた授業像の共有化」  
小学校も中学校も課題解決を重視した「一人学び→グループ交流→全体交流→振り返り」のスタイルの授業である。  
【教師の役割】  
教師は、一人学びやグループ交流の際に個やグループに応じた発問を行ったり、全体交流で児童・生徒の考えをさらに引き出し、まとめ・価値づけるファシリテーター的役割を行う。
- 【学び合いの学習スタイル】  
学習を理解している児童・生徒が理解不十分な児童・生徒に説明することで両方に力がつくことを教師が納得して実践しているため、どの授業でも徹底されている。それが、児童・生徒の思考力・表現力の育成につながっている。
- 取組②「振り返りと評価」  
授業終末の「振り返り」の徹底。自己評価や他者評価を必ず行い、この授業で、「自分は、何が分かって、何が分からないのか」を明確にしている。  
また、友達の良さなどを認識させている。



資料2 話し合い活動

I ト	自己評価項目			発表回数 発表回数	この学習で気付いたこと 注意しなければいけないこと 間違えた問題
	準備	意欲・関心	理解度		
(A) C	(A) B C	(A) B C	△	◇	もうかしか、たす
(A) C	(A) B C	(A) B C	△	◇	復習しよう
(A) C	(A) B C	(A) B C	△	◇	まだかいてる
(A) C	(A) B C	(A) B C	△	◇	おんた(自分)まじ

資料3 自己評価カード

今後の取組

今後の取組

- 【教務担当主幹教諭として】
- 経営の重点に関わるものを質問紙から選び、全学年の実態を分析し、全職員で学校の課題や、めざす児童生徒像についての共通理解を図る。
- 児童・保護者アンケートの分析結果に基づく研修を実施し、学年間の情報交換の場を作る。
- 校内研修の時間に対話活動(話し合い活動)と振り返りを位置づけた授業づくりについての研修を行う。
- 研修部と連携し、家庭学習ノートの見本を校内掲示し、全校で取り組む。その際、どこがよいかのポイントを示して、児童が自分たちで取り組めるようにする。
- 若手教師を中心に教師の「ほめる・励ます言葉集」を配布したり、研修を行ったりし、個に応じた評価ができる教師を育てる。

- 【教務担当主幹教諭として】
- 管理職や研修部、学力向上コーディネーター、学年主任と連携して、授業づくりについてそろえていくものを具体的に文章や映像等で示し、徹底していく姿勢をみせる。学年主任会などをチェック機能として生かし、組織的に授業づくりに取り組む。
- いつでも他クラスの授業を見にいける雰囲気づくり。  
例①) まず、主幹教諭が1単元授業公開をし、続いて、研究主任が1単元授業公開をする。それをきっかけに他クラスの授業をいつでも見に行ける雰囲気にする。  
例②) 教務通信等を通じて、良い授業実践を行っているクラスを報告する。

まとめ  
目の前にいる児童生徒のために、決めたことは全職員で徹底して行い、教師も学び合いの集団になる。